

ふるさとづくり実践活動 意見交換会 次第

日時：平成30年12月19日（水）

16：00 ～ 18：00

場所：中央合同庁舎4号館1214会議室

- 1 開会

- 2 江藤内閣総理大臣補佐官挨拶

- 3 与謝野町ふるさとづくり実践活動の取組状況報告

- 4 意見交換
 - (1) 与謝野町ふるさとづくり実践活動について
 - (2) ふるさとづくり実践活動全般について

- 5 閉会

【説明資料】

資料1 与謝野町ふるさとづくり実践活動現状報告

資料2 矢島委員からの与謝野町ふるさとづくり実践活動に係る感想文

与謝野町ふるさとづくり実践活動 現状報告

平成30年度与謝野町ふるさとづくり実践活動 概要

人口減少や少子高齢化が進行する中で、日本人の心のよりどころ、『ふるさと』を愛する気持ちを育み、誇りあるふるさとをつくる取組は、安倍内閣の重要課題である地方創生の推進に大きく寄与するものです。ふるさとづくりの取組を具体の実践に移し、全国に大きな気運を生み出していく推進役として内閣官房に「ふるさとづくり実践活動チーム」が設置されました。今回、実践活動チームが初めて取り組む「伴走型実践活動」を与謝野町にて行うこととなりました。

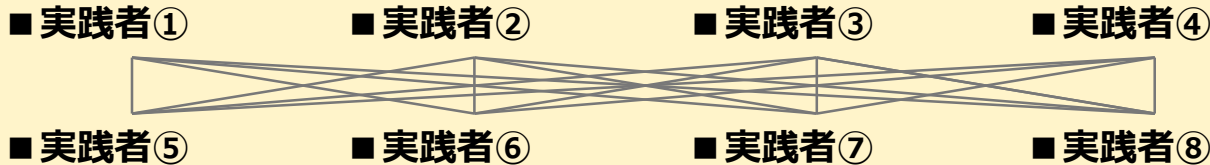
町の課題

- ・与謝野町には、世界に誇る一次産業、二次産業が息づいています。これら産業を育てているのは、大江山連峰、野田川、阿蘇海へとつながる自然環境であり、まちの中にこれだけの恵まれた環境があることは誇るべき点です。この豊かな環境によって育まれる地域資源の持つ安心安全という付加価値を、個性ある町民、事業者の皆さんに、商品やサービスに展開いただくための基盤整備を進めてきました。
- ・しかし、町の基幹産業である織物業、農業分野を中心に、地域資源を活用した取組みへの挑戦が進められているものの、地域経済活動に大きく波及するまでに至っていないとともに、また地域資源の価値を体感できる場所の構築が課題となっています。

与謝野町ふるさとづくり実践活動チーム

※実践者は与謝野町が公募し、伴走支援チーム委員の持つ専門分野とのマッチング可否を踏まえ複数名を選定する。

現在、地域資源を活用したものづくりやサービス提供等の実践者が、地域の課題解決や実践者自身のステップアップを目的に、専門家の伴走支援を受けながら商品やサービス等の魅力や価値の向上もしくは新たな価値の創造、設定した成果指標の目標達成に向けて平成31年1月末まで実践活動を行う。



※実践者は委員からのアドバイス等を踏まえた取組みを実施し、成果を報告する。

与謝野町

伴走支援

現地（与謝野町）における伴走支援活動を年間3~4回程度。メール等で随時相談。

ふるさとづくり実践活動チーム（伴走支援チーム）

【総括】 矢島 里佳 委員

【委員】 吉弘 昌昭 委員、原 範子 委員、金野 幸雄 委員、武田 道仁 委員、藤崎 慎一 委員

連携

京都府

※京都府「市町村伴走型まちづくりサポート事業」の活用を検討

平成30年度与謝野町ふるさとづくり実践活動 実践者について

【株式会社かや山の家運営委員会】



矢島委員
金野委員



【概要】

- ・温江（あつえ）地区の住民を中心に組織する委員会を株式会社化し、大江山の登山口の一つに位置する「かや山の家」を運営。
- ・宿泊、食事、研修場、合宿等として利用されている。
- ・「美と健康を育む天空の宿」として展開。

【目標】

町への貢献として「かや山の家」が町のコンシェルジュとしての役割を担い、観光客、宿泊客に対しお土産や体験施設等の紹介を行えるよう、何がその紹介すべきコンテンツとなるのかを異業種間の産業におけるネットワークを作り、話し合う中で模索する。

【活動実績】

4回（7、9、10、11月）

【現在の状況】

組織として取り組むことや利用客へ提供するサービス内容等を整理する中で、運営体制の見直しを図ると共に、課題を共有する他の実践者と裏山を活用したサービスの提供に着手することに合意。

【エグCafé】



矢島委員
武田委員



【概要】

- ・与謝野町の地域おこし協力隊として自然の中でコーヒーを味わい安らぎを感じてもらおう「エグカフェ」を展開（平成29年度末で退任）。

【目標】

実践者の中にあるエグCaféのイメージを現実的に形にし、ビジネスモデルを確立する。

【活動実績】

5回（7、8、9、10、11月）

【現在の状況】

移動販売車による移動販売（B to C）やデリバリーカフェ（B to B）の稼働に向け準備中。

「かや山の家」の裏にある森を使った森カフェの構想をするうちに、顧客の希望や課題を実現・解決するよう助言等を行うコンサル業をもう一つの活動の柱とすることとし、株式会社かや山の家を顧客としてコンサル業を開始できるよう準備中。

平成30年度与謝野町ふるさとづくり実践活動 実践者について

【よさの三四の森の会】

矢島委員



【概要】

- ・個人所有の山の間伐など森の手入れを実施。
- ・チェーンソー講習会や滝の千年ツバキのある里山づくりにも携わる。

【目標】

町長含む与謝野町役場（農林課）との話し合いを定期的にもつことで、与謝野町における林業の今後を共に考えていき方向性を定めるとともに、よさの三四の森の今後の活動についても一定の方向性を定める。

【活動実績】

3回（7、9、10月）

【現在の状況】

森林についての与謝野町の現況確認と施策の方向性について農林課から話を聞き、森の会としてやりたいこと、できることをリストアップ。大規模事業は一旦置いておき、かや山の家の裏山を活動フィールドに他の実践者と手を組んでプロジェクトを立ち上げることとした。

【万定織物株式会社】

矢島委員



【概要】

- ・町の基幹産業の一つ「織物業」を自営する傍ら、裂き織りグループのリーダーとして活躍。
- ・丹後ちりめん産地としてシルクを中心とした裂き織りを実践し、作った製品をギフトショー等で販売。

【目標】

既に裂き織の商品を販売している企業に、万定織物の裂き織の技術者を紹介し、出機（でばた）としての仕事を生み出す。
また、引き続き、裂き織の技術者を育み雇用を創出する。

【活動実績】

4回（7、8、9、11月）

【現在の状況】

手織りによりハンドメイドで商品を作成する町内の織物企業との意見交換を実施したが合意には至らなかったため、グループの強みをメンバー間で共有し、それを表に出して売り出していくこととした。手始めに、対外的に打ち出すチラシの作成に着手。

平成30年度与謝野町ふるさとづくり実践活動 実践者について

【谷口酒造株式会社】



矢島委員
藤崎委員



【概要】

- ・大江山の麓に位置し、地元丹後で採れた酒造好適米「祝」を中心に扱う明治4年創業の酒蔵。
- ・社長の谷口暢氏自らが杜氏。

【目標】

若冲ブランド・甘酒ブランドの2本柱のブランディング戦略（パッケージ、ネーミング、ストーリー等）を決定（特に甘酒ブランドに注力）。

【活動実績】

5回（7、8、9、10、11月）

【現在の状況】

既に開発中であった新商品において、パッケージ、ネーミング等の商品デザインのアドバイスを受けながら甘酒ブランドの商品として、米と麴を使った新感覚スイーツを「京スイーツ谷口」として開発。11月にはKBS京都「京bizX」にて紹介された。12月1日発売。

（株）地域活性プランニングの「ロケーションジャパン」への掲載に向け調整中。

【砂後建設株式会社・与謝娘酒造合名会社】



矢島委員
吉弘委員



【概要】

- ・同じ地区にある平成20年から新たに米づくりを始めた建設会社と明治20年創業の酒蔵がふるさとを盛り上げるために立ち上げたグループ。
- ・建設会社で作った米で与謝娘酒造が日本酒を作成。

【目標】

砂後米含めた与謝野町の米とその米で造られた自社のお酒の売り先を増やすとともに、与謝野町の米のブランド価値を高めるよう酒が米の宣伝部長となる仕組みを確立し、実際に1月末までに販売を行う。

【活動実績】

5回（7、8、9、10、11月）

【現在の状況】

砂後米を使ったお酒を砂後米とセットでパッケージ販売する商品として、ストーリーやパッケージ、シール等をデザイン。リーフレットには砂後米や与謝娘の多彩なお酒を購入できるよう工夫。12月から販売。今後は他の地元米を使用したお酒とのコラボ商品の開発を予定。

平成30年度与謝野町ふるさとづくり実践活動 実践者について

【下山田グループ】



吉弘委員
原委員



【概要】

- ・このふるさとづくり実践活動の事業により、地区の農地の後継者問題・耕作放棄地に懸念を持った町民3人が集まったグループ。
- ・2人は認定農業士、1人は商店経営者。

【目標】

グループの目指すべき行動指針を作成する。

【活動実績】

4回（7、9、10、11月）

【現在の状況】

ファームおだの事例の研究、法人化の長所・短所を整理した上で、法人化ありきではなく農地を如何にして受け継いでいくかをグループで共有。一定規模の農地面積を管理するために下山田地区のみならず隣地区の農地所有者の巻き込みも模索。まずは実態をつかむことを優先し、所有者の意向調査を実施するための環境整備を進めている。

【一般社団法人プレイス】

金野委員



【概要】

- ・人や情報を繋ぎ合わせ、ライフスタイルの提案や、利用されていない空間・眠っている資産を活用し、人が集いたくなる「場」を創造する空間プロデュースカンパニー。
- ・空き倉庫をリノベーションした「nest」を拠点に活動。

【目標】

現実的な阿蘇ベイエリア構想のあり方を見直す。また、阿蘇ベイエリア構想を実現する株式会社を生み出す。その中で、nestを中核にするべく、利活用方法（誰がどのように）を確立する。

【活動実績】

2回（7、9月）

【現在の状況】

阿蘇ベイエリアの空き家所有者の意向把握、当方の想いに共有してくれる事業者に協力を要請中。

1物件、週末のカフェスペース等に活用できないか検討中。

【与謝野町観光協会】



金野委員

【概要】

・国の重要伝統的建造物群保存地区内の京都府指定文化財「旧加悦町役場」内に事務局を置いて観光案内・手機体験サービス・産品販売業務を行う。

【目標】

与謝野町観光協会のホームページを、異彩を放ち、より存在感あるページにしたい。単なる観光サイトではなく、ファンを育て上げるサイトとして「観光」から「ファン光」のサイト作りを目指す。

【活動実績】

1回（9月）

【現在の状況】

観光コンテンツの紹介ではなく、地域で起こっている未来へ向けた取組・プロセス自体を観光コンテンツと共に上手く伝えることが重要と確認したが、これをW e bサイトで実現するために手法を共に考え支援してくれる適当な伴走者には成り得ず、HP作成の技術的な支援には至らなかった。

与謝野町伴走型ふるさとづくり実践活動チームについて

元々、単発のふるさとづくり実践活動チームで解決できることの少なさを感じたことから、今回の長期的な伴走型のふるさとづくり実践活動ができないかという打診をいただきました。

その第一弾として、京都府与謝野町でスタートすることになりました。2018年8月よりスタートし、6ヶ月間のプロジェクトで動いています。

プレイス、かや山の家、谷口酒造、与謝娘酒造、万定織物、エグカフェ、三四森の会、下山田グループが実践者として名乗りを上げてくださり、4人の委員で伴走することとなりました。

当初、個別の課題に対してヒアリングを行った結果、実は与謝野町の活動的な住人同士の横の交流が、今までなされてこなかったことがわかりました。そこで、個別に上がってきた課題を和えることで、外部リソースで解決するのではなく、与謝野町内の内部で協業することで解決する糸口が見えてきました。

課題認識 何が課題かを言語化する

↓

半年間のタイムスケジュールを考える

↓

足りているリソース、足りないリソースを明確にする

↓

足りないリソースを地域の中で協業を促進し補い合う

↓

未来に向けての筋道が見え、そこに向かって自走し始める。

このようなプロセスをたどっているのではないかと感じます。

第三者が入ることで、一度課題を整理し明確にする。月1回程度のペースで与謝野町を訪れ進捗を確認しつつ、次までの宿題を決める。この繰り返しが、プロジェクトが着実に進むためには必要だと感じています。

ぜひ現地へお越しいただき、実践活動参加者の声をお聞きいただけますと幸いです。

矢島里佳